

# カラマツの安定的種苗生産に向けた技術開発

## 1. カラマツ需要の高まりと苗木不足

カラマツは成長が早く、材の強度が高く、心材の含水率が低いため、材積成長が旺盛で、かつ乾燥コストが少ない樹種です。かつては乾燥・加工時のねじれや割れが問題視されましたが、乾燥技術の進歩によりこの欠点はほぼ克服され、優れた性能を持つカラマツは、今日では外材に対抗しうる樹種と期待されています。今後カラマツの伐採と、その後の再造林が拡大すると予想されていますが、カラマツ種苗の不足が問題となっています。

## 2. カラマツ苗の不足は種子不足

スギでは、ジベレリン処理により容易に着花を促進する技術がありますが、カラマツではそのような技術が十分に確立していないため、種子生産は多くの場合自然任せです。元来、カラマツの種子生産には豊凶があるため、苗木不足の問題解決には種子の安定的生産技術が必要です。

## 3. 3つのステップでの技術開発

このようなカラマツの種苗不足を解消するこ

とを目的として、今年度より、農林水産技術会議の革新的技術・緊急展開事業(地域戦略プロジェクト)として、林木育種センターが代表機関となり、北海道、青森県、岩手県、群馬県、山梨県、長野県の各林業試験研究機関、岡山県生物科学研究所、宮崎大学、北海道山林種苗協同組合、雪屋媚山商店とコンソーシアムを形成し、「カラマツ種苗の安定供給のための技術開発」(平成28～30年度)に着手しました。このプロジェクトでは、1)着花促進、2)種子生産、3)苗木生産の3つのステップを設け、それぞれの段階で技術開発に取り組むことにしました。

着花促進では、光や水分、物理刺激、施肥などの条件をコントロールすることによって着花を促進する技術を、種子生産では、採種時期の最適化と採種作業の機械化を、苗木生産では、さし木技術により1つの種子から複数の苗木を育成する技術を開発します。開発した技術を各地域の状況に応じて組み合わせることにより苗木の生産性を高め、今後のカラマツ林業の発展に貢献することを目標としています。

(育種部 育種第一課 高橋 誠)

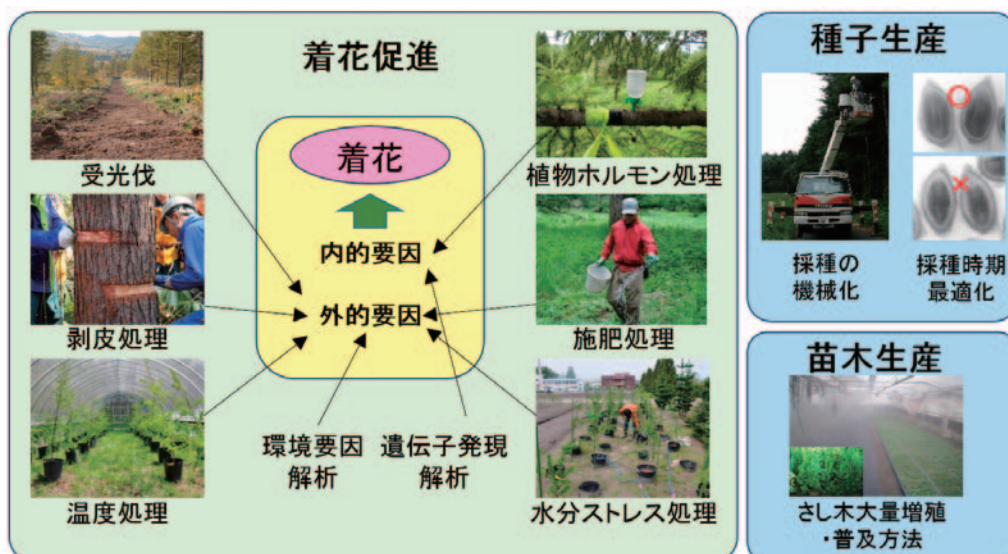


図1 カラマツ種苗の安定供給のための技術開発の課題構成の概要